

未来部会アンケート調査結果（速報）について

○対象及び回答数

未来部会委員・専門委員 22 名（委員 13 名・専門委員 9 名）、回答数 18 名、回答率 81.8%

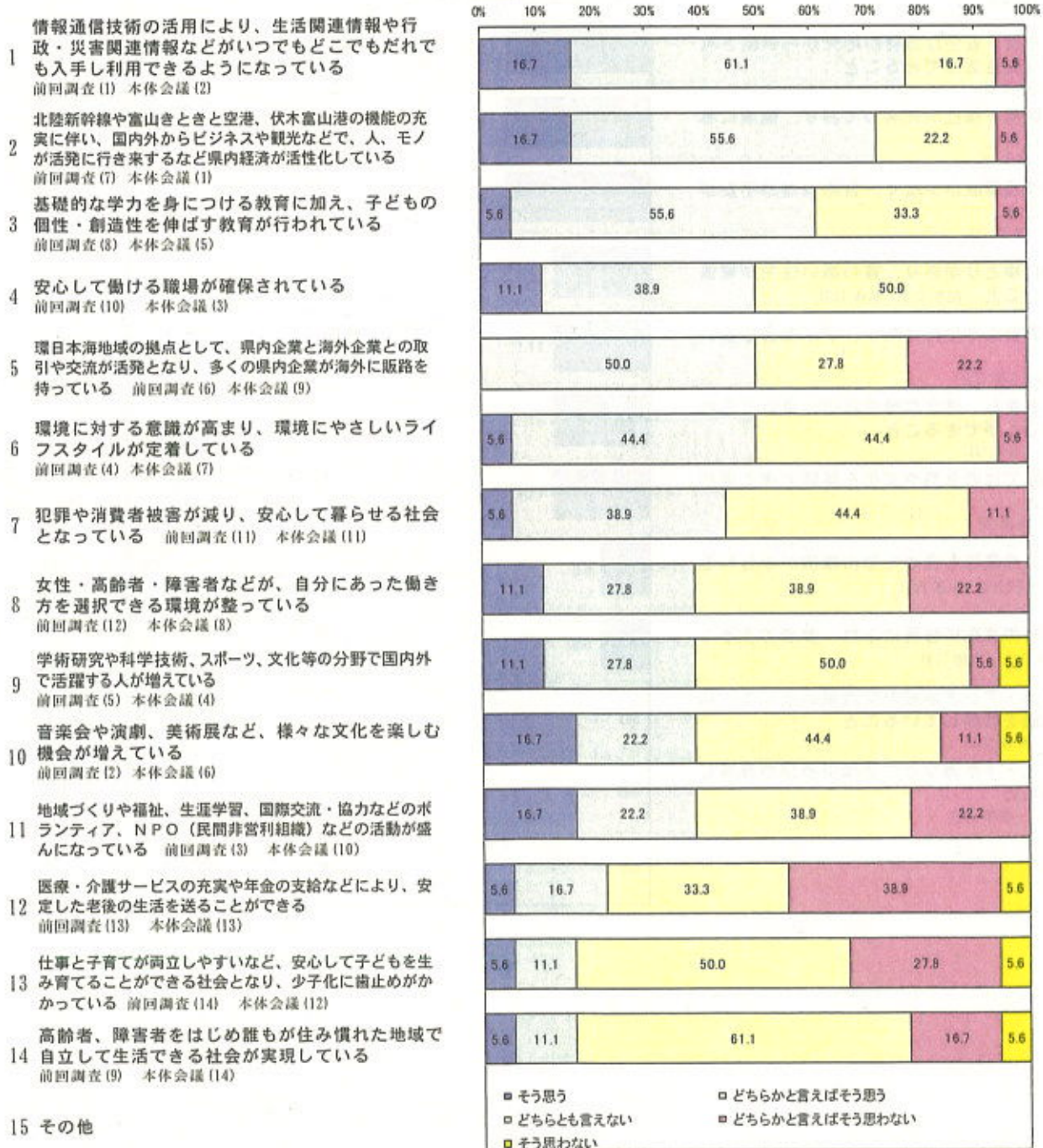
今後 10 年の県づくり

1. 10 年後の県民生活はどのようになるとお考えか

情報化の更なる進展(77.8%)や北陸新幹線等による県内経済の活性化(72.3%)が上位となっている。一方で老後の生活や住み慣れた地域で自立して生活できることへの不安感が強い。

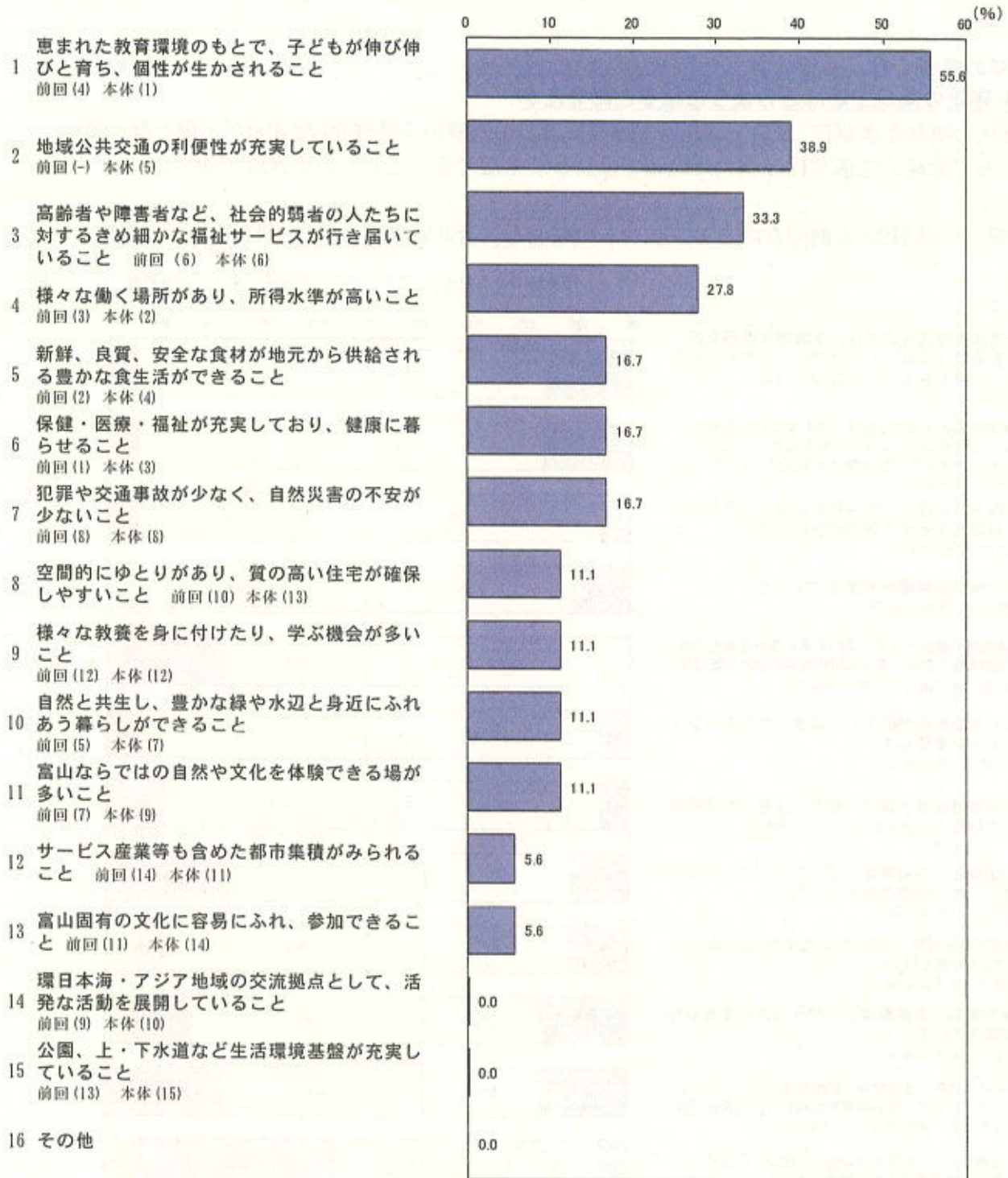
※下記（ ）は H22 の前回有識者アンケートの順位と総合計画審議会委員（41 名分）の順位

順位は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の選択枚



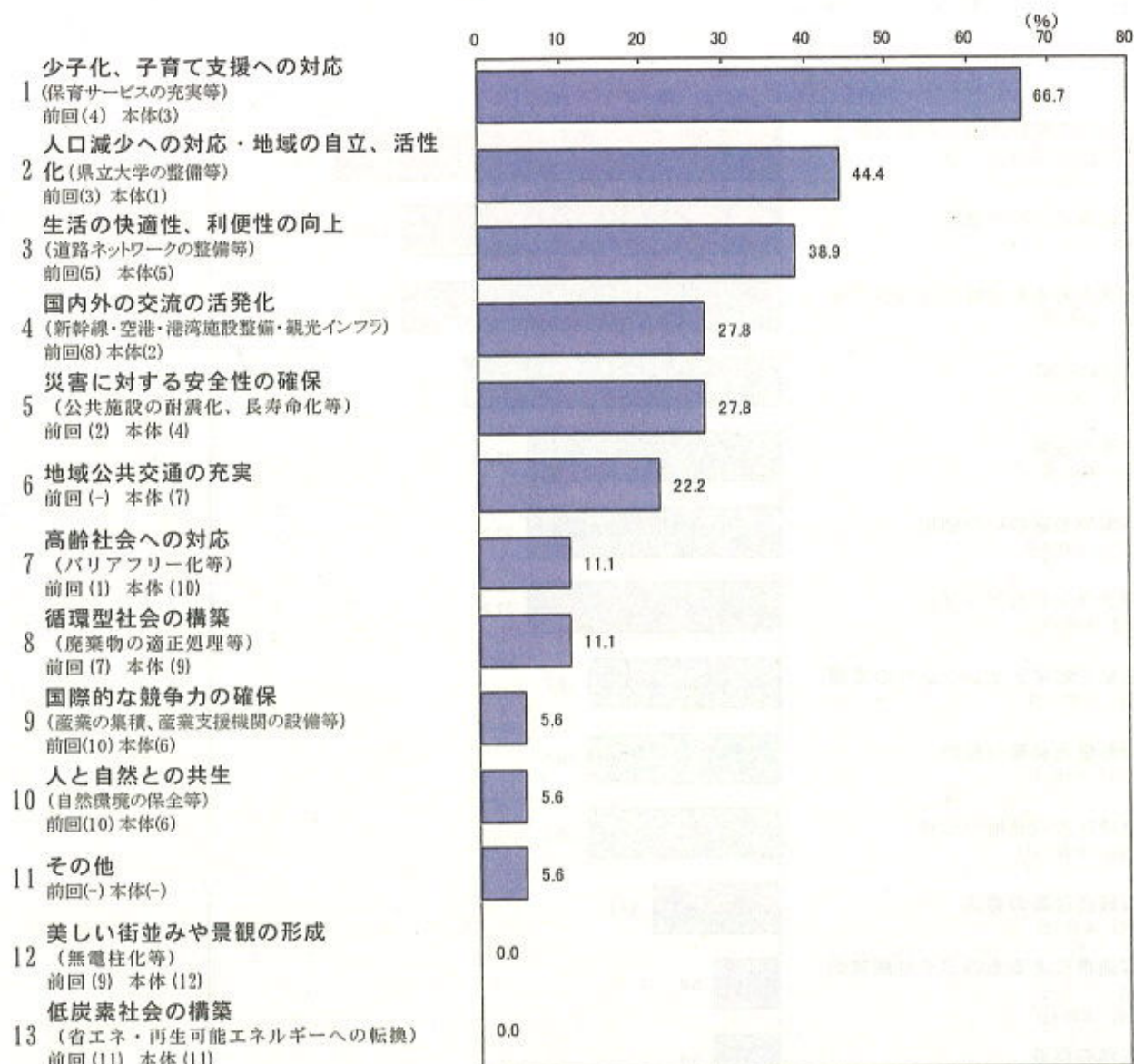
2. 富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要か (3つ選択)

「恵まれた教育環境のもとで、子どもが伸び伸びと育ち、個性が活かされること」(55.6%)、「地域公共交通の利便性が充実していること」(38.9%)、「高齢者や障害者など、社会的弱者の人たちに対するきめ細かな福祉サービスが行き届いていること」(33.3%)の順となっている。



3. 県土づくり(社会資本整備)施策としてどのような成果を重視して整備を進めるべきか (3つ選択)

「少子化、子育て支援への対応」(66.7%)、「人口減少への対応・地域の自立、活性化」(44.4%)
 「生活の快適性、利便性の向上」(38.9%)、の順となっている。

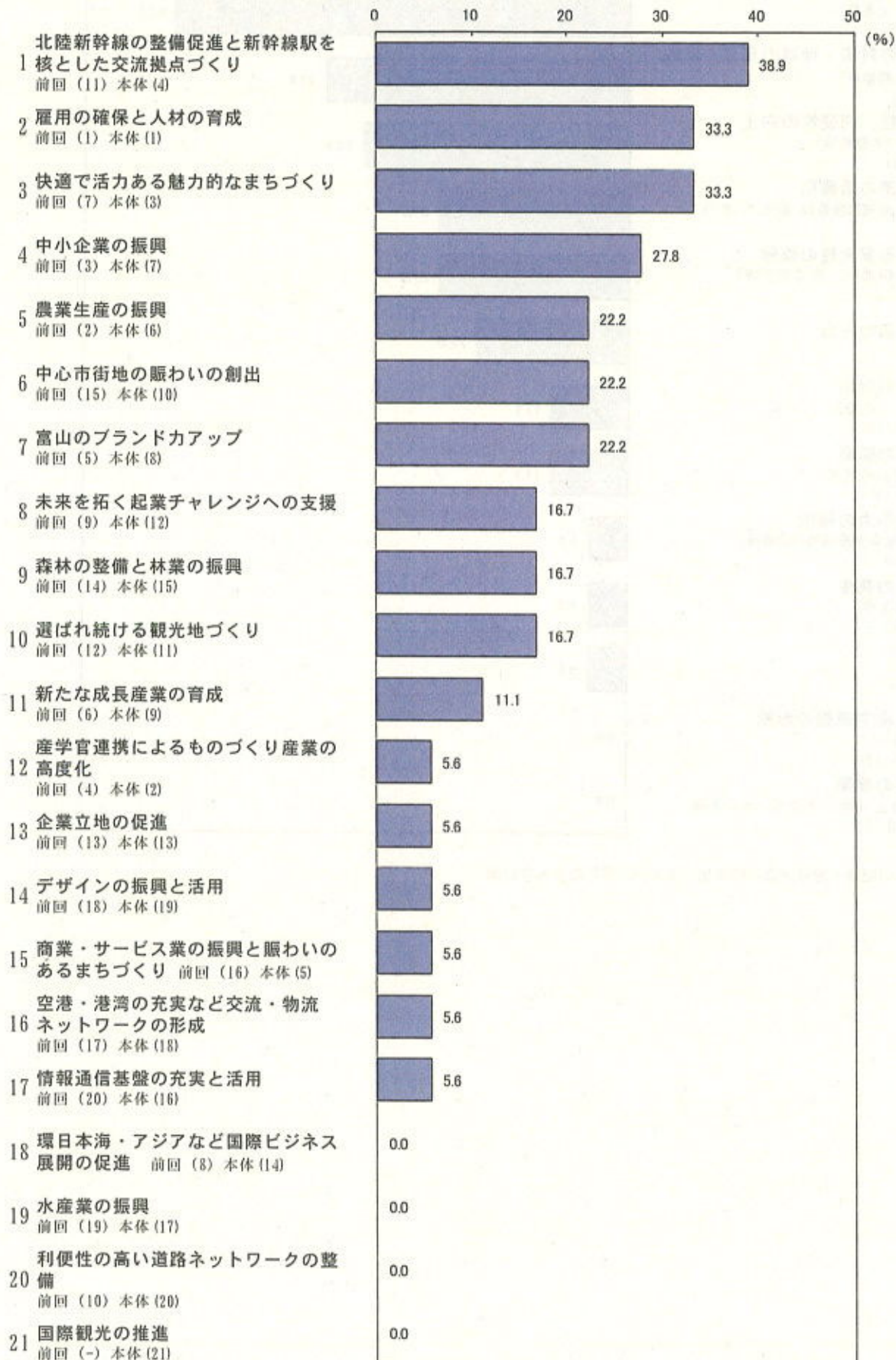


※11 その他への記載：地域商店の活性化、チェーン店にたよらない街

4. 今後10年間を通して特に重点的に推進していくことが求められる施策は何か

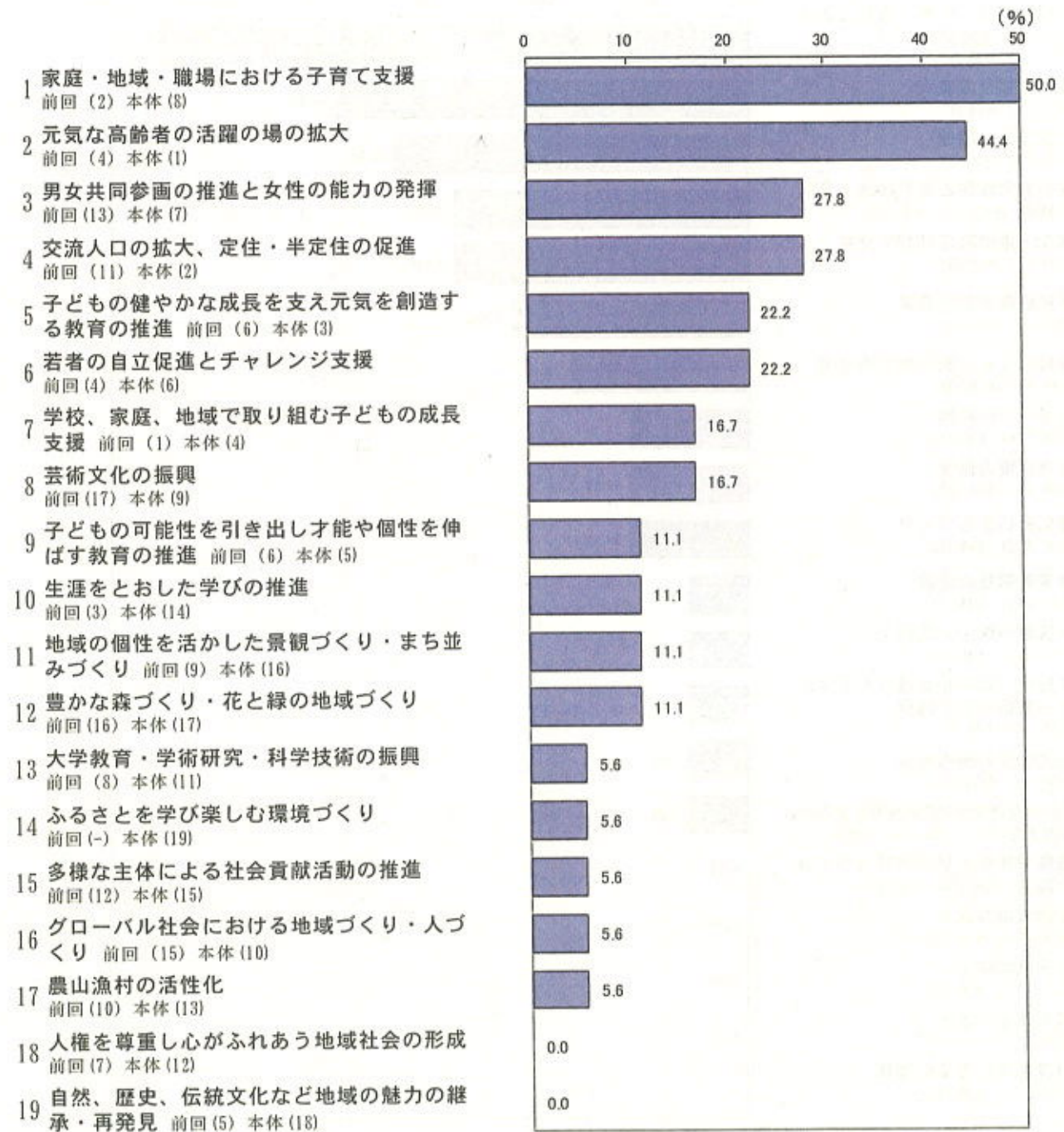
(1) 活力 (3つ選択)

活力分野では、「北陸新幹線の整備促進と新幹線駅を核とした交流拠点づくり」(38.9%)、「雇用の確保と人材の育成」(33.3%)、「快適で活力ある魅力的なまちづくり」(33.3%)の順である。



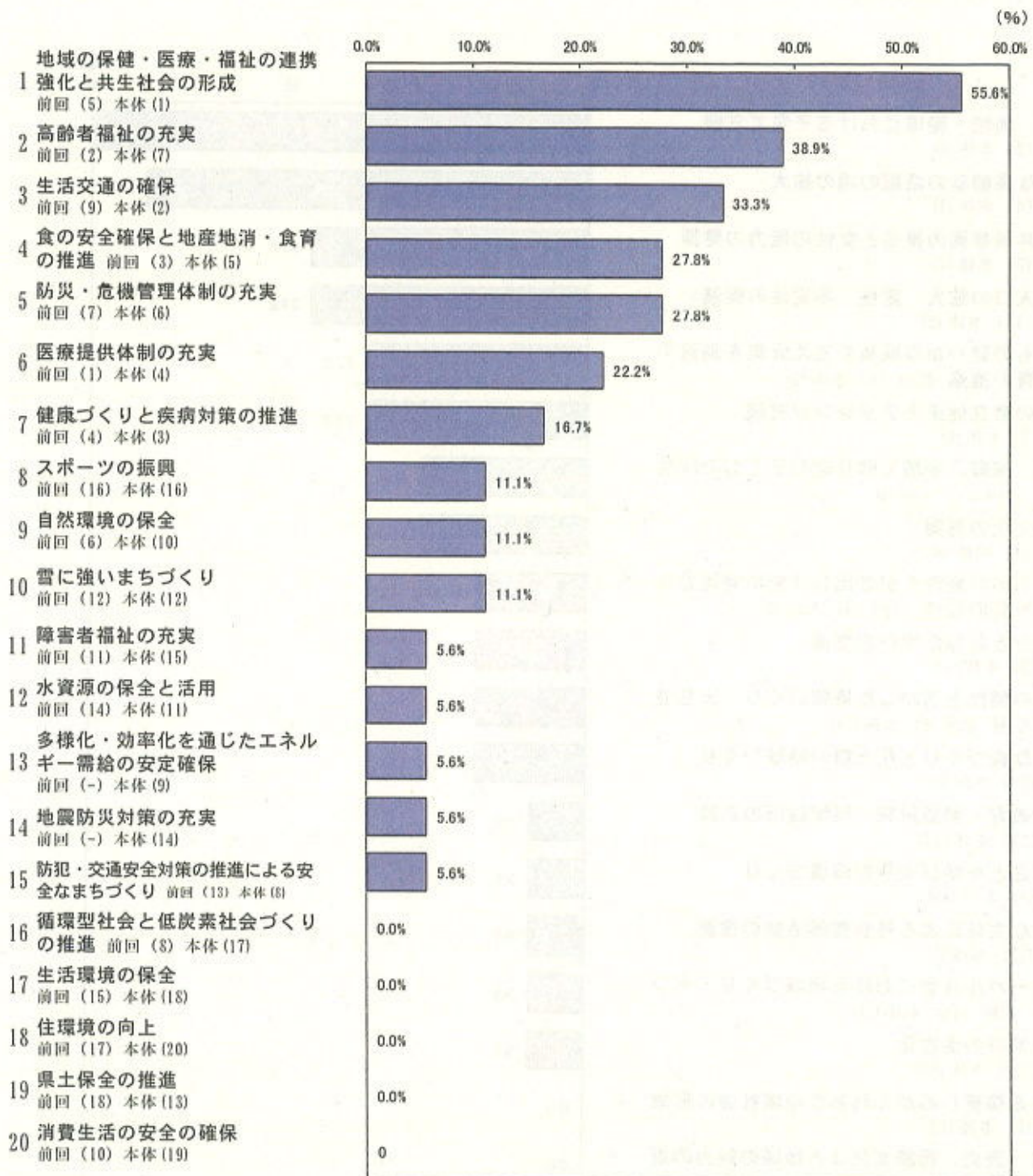
(2) 未来 (3つ選択)

未来分野では、「家庭・地域・職場における子育て支援」(50.0%)、「元気な高齢者の活躍の場の拡大」(44.4%)、「男女共同参画の推進と女性の能力の発揮」及び「交流人口の拡大、定住・半定住の促進」(27.8%)の順である。



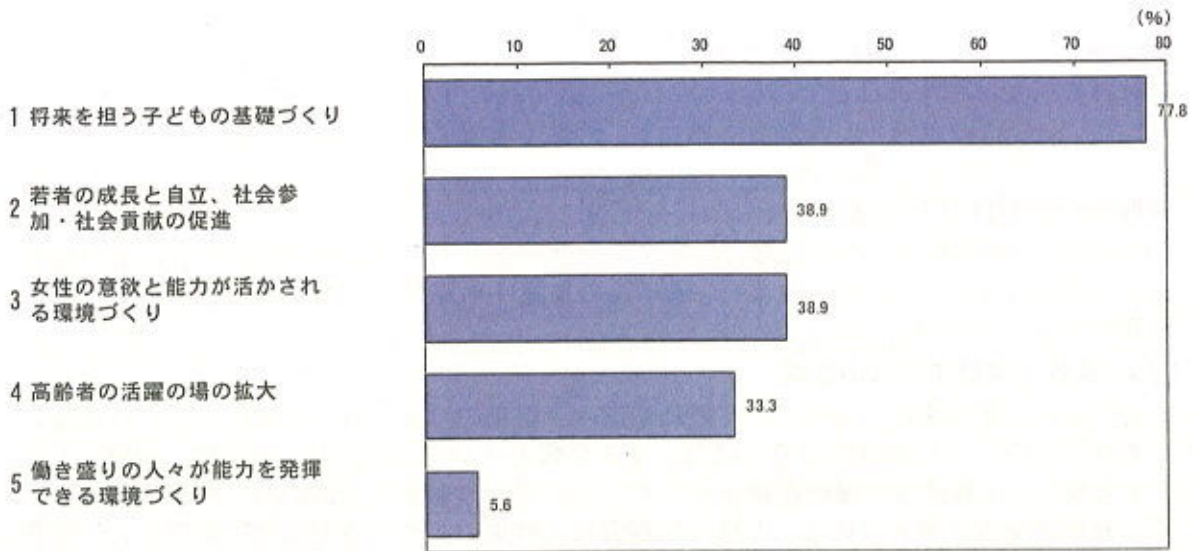
(3) 安心 (3つ選択)

安心分野では、「地域の保健・医療・福祉の連携強化と共生社会の形成」(55.6%)、「高齢者福祉の充実」(38.9%)、「生活交通の確保」(33.3%)、の順である。



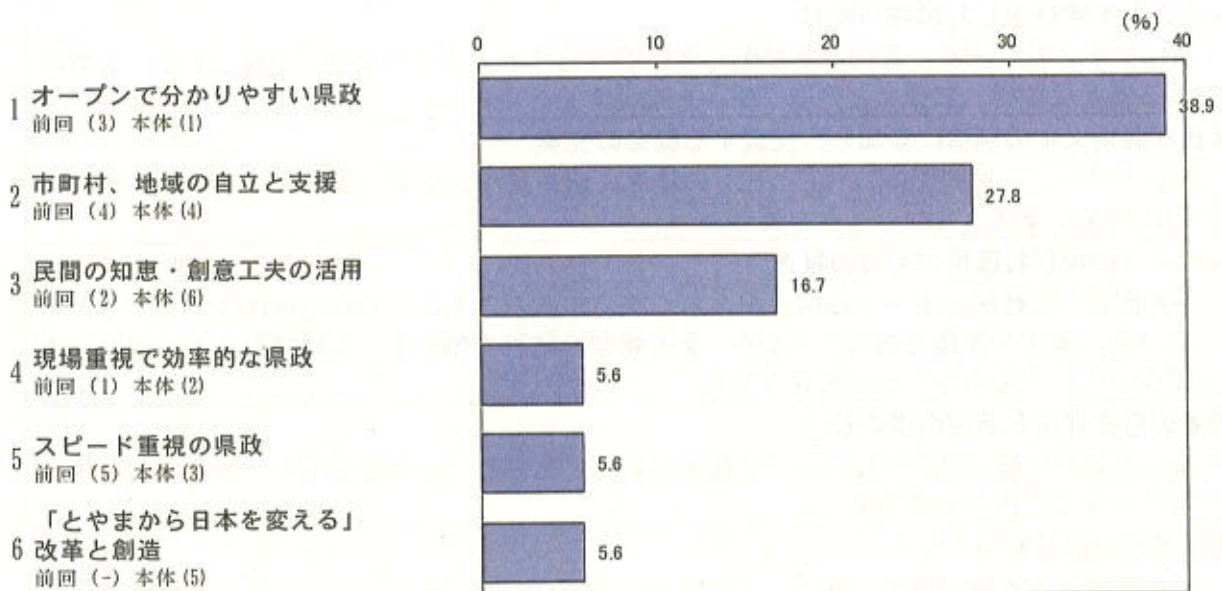
(4) 人づくり (2つ選択)

人づくりについては、「将来を担う子どもの基礎づくり」(77.8%)、「若者の成長と自立、社会参加・社会貢献の促進」及び「女性の意欲と能力が活かされる環境づくり」(38.9%)、の順である。



(5) 行財政改革の推進 (1つ選択)

行財政改革の分野では、「オープンで分かりやすい県政」(38.9%)、「市町村、地域の自立と支援」(27.8%)、「民間の知恵・創意工夫の活用」(16.7%)となっている。



審議会委員アンケート自由意見（抜粋）について

○未来分野にいただいた意見

<p>2. 保育サービスの拡充など積極的な子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none">・初等教育の格差は都市部ほどではないが、0～2歳時へのサポートが不足していると考え。ひとりで悩む若い母親への支援を手厚くし、子育て環境に安定度が高まれば富山への移住も増えるのではないかと考える。
<p>4. 子育て家庭の経済的負担の軽減</p> <ul style="list-style-type: none">・少子化に対して経済的な支援が必要、シングルマザーとしての選択も可能になる程度の社会支援が求められるのではないかと考える。また、通学路の事故や水路等での事故等の防止対策も併せて実施することが必要と考える。
<p>9. 子どもの可能性を伸ばす教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・少子化の上に、理系離れ・ものづくり離れが進み、将来の「ものづくり県とやま」の基盤自体が人材不足のために崩れ去るのではないかと危惧している。それ故、中学校・高校・大学までを対象に、工場見学・講師派遣といった「ものづくり教育」を体系的に構築・実施することが急務であると考えている。人材への投資は、将来のための重要施策と位置づけ、産学官金すべての機能を連携させ、実施すべきと考える。・今の子供たちが、将来、理工系への進学を望むような環境づくりが必要である。・県内の主要産業である医薬品製造等の発展のため、低学年から学習環境の見直しを行うべきでないか。
<p>11. 大学教育の振興とコンソーシアム等の活性化</p> <ul style="list-style-type: none">・大学と企業との連携を強化すべきである。・高等教育の充実、連携が必要である。
<p>14. ふるさとを学び楽しむ環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・富山に生まれた誇り、富山で学び働く喜びが実感できるよう、家庭、地域、学校、企業における様々な教育、支援などの取り組みを推進すべきである。
<p>16. 県民が芸術文化の創造に参加し、交流する機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・県、マスコミ、民間団体の「三つ巴」の世界に類を見ない形で、芸術文化の振興が若い人の間にも深く浸透していくことを願う。
<p>18. スポーツに親しむ環境づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none">・冬期間は、気軽なスポーツの機会が大きく減少するとともに、子育て世代にとって子どもの遊び場の確保が課題であることから、全天候型の施設を増やし、冬期間のスポーツができる環境づくりを進めることが必要である。
<p>21. 若者の自立促進と活躍の場の拡大</p> <ul style="list-style-type: none">・富山の若者を最近見かけないので心配している。あぶれている子どもやニート、引きこもり等に対する支援が必要である。
<p>22. 男女共同参画社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・若い意欲ある女性が県外で就職し、結果として若い女性が減っていく。若い意欲ある女性の職場を県内で増やすとともに、若い女性を引きつけるまちづくり、社会づくりが必要。富山県はものづくりが盛んで従来男性の仕事と思われていた職場が多い。女性の側も固定観念にとらわれず、ものづくり職場へどんどん進出してほしい。

・（女性のサポートと県民マインドのチェンジ）富山県の女性の育児休業取得率は高い水準であるが、第1子の出産や子育てを機に離職した女性の割合は高く、「ママ」が働き続けるということの難しさがあると思う。県の取り組みとして女性の活躍を推進するための支援が増えていることは実感する。しかしその一方で働くママに家事や育児、介護など一方的に負担が増えているようにも思う。女性が輝くためのサポートは、まだまだ必要ではないか。

必要なのは富山県の子育てへの「マインド」の変化であり富山ではやはり「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方が強く、男性が子育てに参加するのが普通だという考え方になること。そして子育てを社会全体で支える仕組みを作ることが必要ではないか。

・家庭・地域・職場の男性に対し、家事・育児・介護は自分たちの仕事でもあるのだという教育が必要ではないか。そのうえで、女性たちに仕事上の権限を与え、のびのび働いてもらうことが大切である。

24. 「くらしたい国、富山」の発信による移住の促進

・災害が少なく、幸福度の高い県として「安全、安心、安定」のトリプルAとしてPRし、他都道府県からの定住を促す。

25. 自然や歴史・文化など地域の魅力のブラッシュアップと世界文化遺産登録の推進

・富山県内の祭をブラッシュアップし、観光客を呼び込む

